



波 濤

http://www.geocities.jp/hatoh_net/

第 4 3 号

発行 放送大学神奈川同窓会
編集委員会

責任者 木村 勝紀

発行日 平成24年7月7日

会員数 585名(平成24年7月7日現在)

「志」と「情熱」をもって「粹」に！



神奈川同窓会
会長 木村 勝紀

過日の総会に於ける平成24年度活動計画の冒頭で、神奈川同窓会の理念を維持し、「志」と「情熱」をもって活動します、と申し上げました。

「志」とは心の向かうところ、「情熱」とははげしく燃え立つ感情です。今から2年前に神奈川同窓会の会長に推されて就任し、今回また改めて役員改選において再選されました。私が会長に推されて受諾したのは、神奈川同窓会に対する愛着があり、日本一の同窓会にしたい「志」があり、「志」を遂げたいという、やむにやまれぬ熱い「情熱」を感じるからです。

会員数約600名という大所帯を一つにまとめるには共有するに足る理念が必要です。神奈川同窓会には立派な三つの理念があります。放送大学を卒業・修了したという誇りで結ぶ同窓会、放送大学を母校に持つという母校意識で結ぶ同窓会、そして社会的存在として社会貢献で結ぶ同窓会です。これらの理念を共有しつつ、会員の、会員による、会員のための日本一の同窓会を作りたい、これが私の「志」です。

神奈川同窓会には20年を超える歴史と伝統があり、歴代の会長をはじめ多くの役員、そして会員のみなさまによって支えられてきました。その間、会員

数の増減、財政基盤の変化、諸制度の改廃など、栄枯盛衰を繰り返しながら今日に至っています。既に定着した会則、運営組織、運営の仕組み、広報のシステム、各種の行事、などはこれからも維持すべき財産であります。しかし、これで満足せず同時に飽くなき前進も図らなければなりません。

昨年は、「准役員制度」を導入し、「弘明寺サロン」を導入し、国内向け社会貢献活動を導入しました。准役員制度は継続的、安定的組織運営のためのサポーター制度であり、弘明寺サロンは、会員が直接顔を合わせる出会い、触れ合い、語り合いの場です。国内向け社会貢献は、放送大学叢書の販売を通して捻出した汗の結晶たる資金をそっくり「あしなが育英会」に寄付する取組でした。いずれも過去には無かった同窓会活動の隙間を埋める活動といえます。

平成24年度も新機軸を取り入れながら神奈川同窓会を新たな領域に押し上げるべく、役員及び会員の皆様と力を合わせて微力を尽くしたいと思います。平成24年度の活動計画の詳細は、総会議案書第4号議案をご覧ください。よろしくお願いいたします。

「粹」という言葉があります。いきいきとして、常に新しい未知の文化を吸収する心がけ、しかも垢抜けしていること、ということです。この「粹」にあやかって、粹な神奈川同窓会を作って行きたいと思えます。

知識循環型の社会の実現に向けて



神奈川学習センター
所長 濱田 嘉昭

小・中・高校の入学時には同じような児童・生徒の集団であったはずが、クラス替えなどをせずに2、3年もするとクラスごとに異なる独特の雰囲気が醸成されてきます。地域、国についても同様でしょう。人はそれぞれの集団・地域で時間をかけて独自の文化を形成します。放送大学にもこれまでの30年で蓄積されてきた文化があります。放送大学の学習センターにも同じことが言えるでしょう。センターごとの地域性を反映した、独特の資質をもった人々が作る、少しずつ異なった多様性のある文化が形成されています。これは大事に育てていきたいものです。

現在、教育に関わる行政・大学・学術機関では、知識循環型社会の構築ということが謳われています。伝統的な家庭・学校・社会教育に加えて生涯にわたる学習とその社会還元が求められています。これは高齢者が多くなっているわが国の人口構成を考えても頷けることと思います。わが国では人が財産であり資源です。ただし、それをどのように実現するかに関しては決まった方策はなく、それぞれの人、グループ、機関が、その固有の条件を活かして創造していくしかないでしょう。放送大学では、その実現の主体は学習センターであると考えます。

放送大学で学ぶことはそれ自体で素晴らしいことですが、できれば、これまでに蓄えた知識と経験を社会に還元していただきたいと思えます。学習センターには、それができる人材と意欲のある方が集まっていることを知っています。神奈川学習センターの特徴は多様なサークルがそれぞれに活動していると同時に、サークル連絡協議会に集約され、フェスタヨコハマなどのイベントを協力して成功させていること、それらに人的にもオーバーラップしながら同窓会が優れた

活動をされていることです。さらには4年前に発足した学生による、学習センターとしての活動を支えるKサポートの存在です。もちろん、特定のグループには所属しないけれど、日々のセンターの活動に参加されている少なからぬ学生の皆さんがおられます。

神奈川学習センターに所属する学生数は、この4月で約5千名、9のサークルには4百名以上の皆さんが結集して、活発な活動を展開しています。この4月の入学者の集いでは、同窓会にも2桁の新規加入があったと聞いています。それぞれに、さらに発展する基盤が強まったという印象を受けました。皆様が放送大学での学習に磨きをかけられ、学習センターでの活動を楽しむと同時に、社会との接点を広げ、学ばれたことを社会に還元されることを期待しています。

放送大学の存在意義



神奈川学習センター
前所長 渡邊 慎介

神奈川学習センターでの働きは、3年間という短い期間ではありましたが、何も知らない所長を支えて下さいました皆様に、深く感謝を申し上げます。

放送大学は、実に素晴らしい大学です。それを、退職1週間前に新聞のコラムに書きましたので、紹介させていただきます。

「教育は教育機関の独占行為ではない。ふだんの生活の中で、新聞や本を読み、放送を見聞きしての学びもあるし、人との交流の中で教えられることも多い。能動的な学びもあれば、知らないうちに教えられる学習も少なくない。だからといって学校教育に意味がないわけではない。それどころか、専門家から受ける教育こそ、内容の深さ、学習効率など、あらゆる面で格段に優れている。学校教育にまさる教育はない。

もちろん、教育を受ける側の姿勢も教育効果を左右する。日本では、小学校から中高、大学へと進学

するにつれ、児童・生徒・学生から学習への意欲がしだいに失われる。

掛け算の九九を一生懸命覚え、「はい、〇〇君、できました」と先生に褒められて、安堵と喜びを感じた小学校に比べると、単位を取る、落とすに一喜一憂する大学は、何とも味気ない。その取り組み方のちがいはどこから来るのだろうか。いつも不思議に思う。

大学では、かなり前から「プロジェクト・ベースト・ラーニング」なる手法がもてはやされている。一つの課題に取り組む中で、学生は学ぶべき分野に気づき、課題解決のために基礎学問を学び直すという動機付けの手法である。私の勤務する放送大学では、テレビとラジオによる授業のほかに、全国の学習センターで開講する対面式の面接授業がある。面接授業は、主として地元の大学の先生にお願いするが、先生方は喜んで引き受けてくださる。

その理由は簡単である。本務校の講義より、放送大学の面接授業が楽しいのである。学生の反応があり、生き生きとしたやり取りの中で講義が展開するからである。年齢も経験も多様な学生の集まる放送大学では、一人ひとりの学生のこれまでの経験が、それぞれにプロジェクトらしきものを形成し、取り組むべき課題を明確化する。それが能動的な勉強に繋がる。入学試験もない大学に、これほどまで活気あふれる熱い教室があることに、私自身もはじめは驚いたほどである。生きること学ばることである。お題目でなく、生涯学習の実践の場がここにある。若者、身体の不自由な方、キャリアアップの社会人、教養を高める退職者、そんな学生の前向きな姿勢が授業の質を高める。(日経産業新聞2012年3月23日9面。一部修正。)

放送大学がその優れた面にさらに磨きをかけ、全国の大学の模範になることを期待しております。その責任を担うのは、在学生の勉学意欲であり、また卒業生の支えであろうと思います。

第23回通常総会

平成24年5月27日(日)13時より「第23回放送大学神奈川同窓会通常総会」が神奈川学習センター第3講義

室において開催されました。議長および書記が選出の後、次の議案が提出され審議され承認されました。

審議事項

第1号議案 平成23年度活動報告

第2号議案 平成23年度収支決算報告
及び平成23年度監査報告

第3号議案 平成24年度役員改選

第4号議案 平成24年度活動計画

第5号議案 平成24年度活動計画収支予算

第6号議案 会則改訂

以上6件の議案はそれぞれ承認されました。

神奈川同窓会・平成24年度活動計画

◆活動方針

神奈川同窓会の理念を維持し、志(principle)と情熱(passion)をもって活動します。理念とは、①誇り(pride)を絆に結ぶ同窓会 ②母校意識(strings)で結ぶ同窓会 ③社会貢献(social contribution)で結ぶ同窓会です。放送大学卒業・修了という誇りを共有し、放送大学を母校に持つという糸で結び、社会に貢献するという高邁な精神で結ばれる、という意味です。そして会員の、会員による、会員のための同窓会にしたいと思います。役員並びに准役員は、お手伝いをさせていただきます。



木村会長の挨拶



平成23年度収支決算報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

1.収入の部

単位:円

科目	予算額	決算額	差異
(1)前年度繰越金	2,638,703	2,638,703	0
(2)本年度収入	785,000	778,256	△ 6,744
①入会金	100,000	130,000	30,000
②年会費	579,000	522,000	△ 57,000
③雑収入	5,000	37,000	32,000
④助成金	100,000	88,700	△ 11,300
⑤利子	1,000	556	△ 444
合計(1)+(2)	3,423,703	3,416,959	△ 6,744

2.支出の部

科目	予算額	決算額	差異
(1)本年度経費支出	730,000	607,053	122,947
A 活動費	360,000	354,144	5,856
①会報費	250,000	241,500	8,500
②活動運営費	90,000	99,723	△ 9,723
③卒業祝賀運営費	20,000	12,921	7,079
B 事務運営費	320,000	202,909	117,091
①会議費	25,000	3,160	21,840
②交通費	80,000	48,890	31,110
③通信費	85,000	53,735	31,265
④消耗品費	50,000	55,120	△ 5,120
⑤交際費	5,000	3,000	2,000
⑥HP維持・管理費	10,000	6,300	3,700
⑦名簿管理費	15,000	3,000	12,000
⑧雑費	20,000	20,284	△ 284
⑨予備費	30,000	9,420	20,580
C 30周年記念事業積立金	50,000	50,000	0
小計(A+B+C)	730,000	607,053	122,947
(2)次年度繰越金	2,693,703	2,809,906	△ 116,203
合計(1)+(2)	3,423,703	3,416,959	6,744

平成23年度社会貢献収支決算報告

フォスター・プラン

平成23年4月1日～平成24年3月31日

1.収入の部

単位:円

科目	予算額	決算額	差異
(1)前年度繰越金	845,120	845,120	0
(2)本年度収入	357,100	339,080	△ 18,020
①寄付金	357,000	339,000	△ 18,000
②貯金利子	100	80	△ 20
合計(1)+(2)	1,202,220	1,184,200	△ 18,020

2.支出の部

科目	予算額	決算額	差異
(1)本年度支出計	350,000	325,628	24,372
①援助金	300,000	300,000	0
②活動費	10,000	665	9,335
③振込み手数料	20,000	17,160	2,840
④事務費	13,000	6,083	6,917
⑤通信費	7,000	1,720	5,280
(2)次年度へ繰越	852,220	858,572	△ 6,352
合計(1)+(2)	1,202,220	1,184,200	18,020

平成24年度収支予算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

1.収入の部

単位:円

科目	予算額
(1)前年度繰越金	2,809,906
(2)本年度収入	738,600
①入会金	100,000
②年会費	601,000
③叢書販売受託手数料	37,000
④助成金	
⑤利息	600
合計(1)+(2)	3,548,506

2.支出の部

科目	予算額
(1)本年度経費支出	661,000
A 活動費	303,000
①会報費	200,000
②活動運営費	83,000
③卒業祝賀会運営費	20,000
B 事務運営費	271,000
①会議費	5,000
②交通費	70,000
③通信費	60,000
④消耗品費	55,000
⑤交際費	6,000
⑥HP維持・管理費	10,000
⑦名簿管理費	15,000
⑧雑費	20,000
⑨予備費	30,000
C 社会貢献活動	37,000
D 30周年事業積立金	50,000
(2)次年度繰越金	2,887,506
合計(1)+(2)	3,548,506

平成24年度社会貢献予算

プラン・ジャパン

平成24年4月1日～平成25年3月31日

1.収入の部

単位:円

科目	予算額
(1)前年度繰越金	858,572
(2)本年度収入	340,080
①寄付金	340,000
②貯金利子	80
合計(1)+(2)	1,198,652

2.支出の部

科目	予算額
(1)本年度支出	344,000
①援助金	300,000
②活動費	8,000
③振込み手数料	18,000
④事務費	12,000
⑤通信費	6,000
(2)次年度へ繰越	854,652
合計(1)+(2)	1,198,652

平成23年度学位記授与式

岡本 興和

平成23年度学位記授与式が2年ぶりに2012/3/24(土)11時よりNHKホールで行われました。昨年は東日本大震災が発生し取りやめになったので、22年度の卒業・修了生も列席し挙行されました。NHKホールは1500名の卒業・修了生と450名の同伴者やスタッフを含め2300名が広いNHKホールで埋め尽くされていました。

式典は国歌演奏、来賓祝辞と進み、岡部学長から卒業生に卒業証書・学位記が授与されました。神奈川学習センター所属の高橋昭善さん(教養学部 総代)、安達美帆子さん(大学院 総代)が卒業生・修了生謝辞をしました。式典の掉尾を飾るのは岡部学長の指揮による学歌斉唱です。臼井理事長も飛び入りで加わり、神奈川学習センター所属の学生も多数ステージ(60名中20名)に立ちました。

NHKホールから祝賀会場の赤坂のニューオータニへ移動は神奈川同窓会がチーフとなりバスの誘導を行いました。午後1時30分から卒業・修了祝賀パーティーがホテルニューオータニの鶴の間で始まり、先生方も加わった1000名の大パーティーです。



岡部学長を囲んで

北海道から沖縄まで学習センター別に分かれた円卓を囲んで卒業の喜びを噛みしめ、いつまでも談笑が続いていました。鷹背アナのステージインタビューや、「悪い子は、いねえがあ！」と雄叫をあげ会場を回った4匹のなまはげが現れたり、日本三代盆踊りの西馬音内地方の盆踊りでお祝いに彩りを添えていました。神奈川同窓会はバス誘導、入会受付、写真記録、叢書販売、会場係、会計等々の役割を担いました。

『千里之行、始于足下』

千里の道も一歩から

尹 秀蘭

私は中国で生まれ、育ちました。30代で来日した時は日本語が話せませんでした。その私が放送大学を卒業するまでには、長い道ゆりがありました。長い道ゆりの一歩は日本語の学習でした。必死で日本語の文型を覚えて、やがて日本語能力検定1級を取得しました。そして、東京の区立小中学校で外国人生徒の適応指導に就く事ができました。

主に中国の生徒に日本語指導や学校生活の適応指導です。中国で小学校の教師をしていた私はこの仕事に愛着を感じていました。それで、私はもっと深く日本の事を知りたいと思うようになり、そんな時友人の誘いもあり放送大学に入学しました。

しかし、入学はしたものの何をどのように学んだらよいか分からず、途方に暮れました。当初、「講義が理解できずセンターの事務局に手助けしてくれる人の紹介を依頼したところ」放友会の方に紹介を受けました。その方達は勉強の方法やテストの攻略法を親切に教えて下さいました。大学の教科書は日本語学習の本とは違い、専門用語や抽象的な言葉が沢山あり大変でした。辞書を調べても解説が出てこないことも有り、理解できる迄に多くの時間を費やしました。

私は日本語に関して、話す事やヒヤリングについては多少自信がりましたが大学の教科書を読むこと、特に文字や文章の意味を理解するのが難しく大変苦労しました。一冊の教科書を読み終えるのに、とても時間がかかりました。

それに、私は複数の学校で仕事もしていましたので勉強する時間があまり有りませんでした。そこで、私は講義を録音し、仕事で学校間を移動する時と往復時間を利用して耳学問に励みました。夜は、帰宅したら教科書を読みながら辞書を引き、それでも分からない時は学友や先輩に教えを請い、疑問の解決に努めました。このように学業を続ける上で常に私の力になりました。重点項目をチェックした教科書を見せて下さったり、万葉仮名や古文の解説をしたためて送って下さったり、また、単位認定試験では一回で受

かった事もありましたが、同じ科目を2、3回受けた事も数多くあり、中には4回も再試験を受けたものも有りません。難問や過去問を何度もノートに書き写して取り組みました。



鶴の間のステージで鷹背アナのインタビュー

更に、私の勉学を続ける上で強力な手助けをしてくれたのがコンピューターでした。コンピューターの「コ」の字も知らなかった私が必要に迫られてパソコンを求めた事により、インターネットを利用して、スカイプでのチャットやビデオ通話を活用する事で理解できない事柄の解消に大いに役立ってくれました。入学時、卒業に必要な「124単位」は遥か遠くに感じられ卒業できる自信はありませんでした。今こうして、9年間の大学生生活を振り返ると中国の諺にある『千里之行、始于足下』千里の道も一歩から。この言葉のように一歩一歩確実に歩んで行けば必ず達成出来ると思えるようになりました。最後に私を支え続けてくださった放友会の皆様にお礼と感謝の気持ちを述べさせていただきます。「多謝！有り難うございました！」

皆さまの心のこもった温かい励ましは、終生私の心の中で生き続けることでしよう。

「映画鑑賞会」報告

西山 哲郎

2012年3月4日に神奈川同窓会、サークル協議会共催による映画鑑賞会が例年通り開催されました。放送大学の卒業生でもある横浜映画研究会の西浦先生の講演の後で、映画「フラガール」を鑑賞いたしました。

「フラガール」は、昭和40年頃の常磐炭鉱の縮小に伴い、ハワイアンセンターを作って町を維持しているという実話を下敷きにした映画です。映画が製作されたのは、平成18年で、監督は李相日、主演は松雪泰子、蒼井優です。ハワイアンセンターのある福島県いわき市は、昨年の東日本大震災や原発事故によっても多大な被害を受けており、西浦先生には時節にあった映画を推薦していただきました。国を支えているという自負から、炭鉱と言う必ずしも良くはない労働環境で家族ぐるみで、世代を継いで働いていた職場がなくなります。炭鉱から娯楽という全く異なる仕事で町おこしをしようというお話から、人間の可能性の大きさを感じました。

当日は、80名の方に参加いただきました。映画の舞台になった常磐ハワイアンセンターは、現在はスパリゾートハワイアンズと名前を変えていますが、東日本大震災を乗り越えて現在全面開業しておりますので、是非、おでかけください。



「生命を守るみどりを考える」

第4回サークル合同講演会報告

村田 カズ子

平成24年3月4日(日)10:00から神奈川学習センター第8講義室において、神奈川サークル協議会主催の講演会が開催された。講師は藤原一繪先生、神奈川学習センター客員教授(植生学者・理学博士)であり、会場には90余名の参加者が時を得た演題に熱心に耳を傾けた。

今回の講演のレジメの冒頭にも2011年3月11日に東日本を襲った大震災、未曾有の天災・人災(死者15854人、不明者3276人)をひきおこした大災害に先ず触れている。昨年、藤原先生の面接授業『みどりによる地球再生』で横浜国大のキャンパスを歩かせ

て頂き、災害に強い植生は何か、それは何故かを具体的に学ぶきっかけになり、“目から鱗“の感動の授業を体験した。日本人好みの白砂青松(砂浜と松)がいかにかに災害に弱かったか・・・。

災害に強い緑は日本であれば昔からの”潜在自然植生”『鎮守の森』や『屋敷林』に象徴されるその土地にあった植生・樹木であること。そこには、シイ、タブ、カンなどの常緑広葉樹(深根性、直根性)の木々が混植、密殖していて、あらゆる困難にも生き延びる力がある事例を話された。



講演中の藤原先生

浅根性のマツも他の樹木と混植することで防潮、防風力が増した湘南海岸の事例や横浜国立大学のゴルフ場跡地からの緑の再生も木そのものの力を借りた自然システム(密殖することで競争し合うなど)に委ねること、即ち災害に強い樹木になることを沢山の事例から学ぶことが出来た。

日本に住むからには、生命を守るために自分たちの環境と向き合い、環境を理解し、リスクと共存すること。もし自然資源(緑・土・水ほか)を保全し、上手に管理していかなければ結果的に自然のしっぺ返しを受けることになり、生命の基盤を失うことになるという先生の言葉は重く受け止め、常に生活して行かねばならないと思った。

急進国、中国では緑、自然保護の考えは国立公園か寺にのみ適用され、木材は薪や牛の食用になるのだと。“黄砂”被害に苦しむ韓国事情を横浜国大・韓国留学生が「黄砂現象は中国の砂漠化、産業化による」と力説されたことを覚えている。黄砂被害は日本でも最近目立つこと。4、5月頃、北アルプス立山連峰横断のバスツアーで2000m以上の高地を走る高原バスから“雪の大谷”(20mに近い高さの雪の壁)を走るとき雪の断面にくっきり薄茶色の層が現れる。これは、黄砂が積もったものであると案内された。

3. 11 東日本大震災に直面した私たち、あれから

も何度も揺れる日本列島。山下公園が関東大震災の瓦礫を埋め立てて出来たことは横浜市民には周知の事実だが、私の故郷・秦野にも「山裂けて成しける池や水すまし」と寺田虎彦が詠んだ句碑が立つ、関東大震災で生じた震生湖。亀裂断層の中に下校中の小学生が埋まった。『天災は忘れた頃にやってくる』寺田虎彦の言葉である。

自然林の保全、壊れたら再生、失ったら創生、そして共生。『環境を理解してリスクと共存していく』重い、決して一時も忘れてはならない教えである。生物界の原則・掟を知る。全てのものが輪廻、連携していること、落ち葉を食べる地中の微生物動物が土を育てている。一度壊れたものを元に戻すことの困難さ、覆水盆に返らず・・・。

今回の貴重な講演を通し、神奈川学習センターの学生は緑が果たす役割を十分理解したことと考える。

私流、モロッコの思い出(その1)

植地 勢作

2011年9月30日から9日間、モロッコを旅してきた。「なぜモロッコか?」という、紙の伝播の歴史の中でフェス(又はフェズ)が重要な拠点となっており、どんなところか知りたいと常々考えていたことによる。フェスは最近では日本でも人気があり、テレビでもよく放映されるようになっている。今一つは、紙の主要な原料とされたエスパルト草(アフリカハネガヤ)の実物をこの目で見たいということである。モロッコは遠い国で、日本との時差は9時間もあり、片道ざっと丸一日かかった。

旅の全てを語ることはできないので、次号と合わせ、特に印象に残った事柄をピックアップしてお伝えしたい。



フェスの旧市街遠望

モロッコの概要

モロッコは北アフリカの西北部に位置する国で、西サハラを除くと面積約45万平方km、人口3,200万人である。首都は

ラバトで、民族はアラブ人65%、ベルベル人35%、公用語はアラビア語であるがフランス語も併記されている。国教はイスラム教である。「ベルベル人」とはローマ人によって「野蛮人」という意味でつけられた蔑称だが、今では彼らは伝統のあるこの名を誇りに思っているようである。

国の中央部を北からモワイヤンアトラス山脈、オートアトラス山脈、アンチアトラス山脈という3つの山脈が走っており、最高峰はワルザザートの西に位置するトゥブカル山で標高は4,167mもある。北部には東西にリフ山脈が走っている。砂漠の国とはいえ、これらの山脈に積もる雪のおかげで水量が豊富で、電力の80%は水力でまかなわれているそうである。山脈の東側はサハラ砂漠の端に位置し、西側は大西洋の影響を受けて比較的温暖であり、海拔450mの都市マラケシュの年間気温はほぼ東京と同程度で、比較的過ごしやすいようである。

産業政策としてリン鉱石、漁業、農業、観光業、雑貨(革製品など)を5本の柱として掲げている。歴史的には、紀元前3千年頃からベルベル人が住んでおり、紀元前後にはローマに支配され、ヴォルビリスにローマ古代の遺跡が残っている。



首都ラバトの王宮

788年、イドリス1世により初めてイスラムによる王国が建国された。その後、幾多の王朝や首都の変遷があり、1666年、アラウィー朝(首都:マラケシュ)が興った。現王朝はアラウィー朝の系譜につながる。1912年にフランスの保護領となったが、1956年、フランスから独立してモロッコ王国となり現在に至っている。政情は極めて安定しており、親日的で、皇太子殿下は2度も訪問されている。

〈イスラム教〉

「イスラム教とは?」という問いに、簡潔に答えること

はできないが、少なくともイスラムの教義の基本「六信と五行」を知れば、理解の一助となろう。六信とは六つの信仰個条のことで、アッラー、天使、使徒(預言者)、啓典、来世、神の予定、のことであり、五行とは信者の五つの義務、すなわち信仰告白、礼拝、喜捨、断食、巡礼のことであり、とにかく信仰心が厚い。

〈王宮と廟〉

君主国モロッコでは現国王に対する親近感が強く、王廟もよく保存され、観光資源でもある。

(次号に続く)

講演会「現代のICT技術について」報告 過去のICTと対比して

金田 保男

5/27(日)総会後に同窓会の会員以外の皆様にも自由に参加していただける公開講座として記念講演会が行われました。今回は、講師として 葛貫 壮四郎氏をお迎えし、演題「現代のICT技術について」講演いただきました。過去のICTと対比して、 아이폰、アイパッド、フェイスブック等の実演をまじえての講演で、熱心な質問もあり時間をオーバーする盛況ぶりでした。なお葛貫氏は、情報関係研究開発者として活躍され放送大学茨城同窓会会長、放送大学同窓会連合会会長を歴任されています。参加者:70名



アイパッドで金環日食(5/21)を撮った



思考空間を広げるマインドマップ(MindMap)の実演

波濤ネットの会 入会のお誘い

岡本 興和

波濤ネットの会は神奈川県同窓会会員の通信連絡網です。2007年11月に始まり6年目を迎えます。事務局からの連絡と会員からのレポートが寄せられています。

登録無料・会費無料・入会随時

同窓会の行事・イベントの連絡

同窓会ホームページとの連携

投稿大歓迎

「ROMる」会員歓迎

Read Only Member

入会のご希望者はお名前、アドレス、ウイルス対策ソフト名を明記してシステム管理者のアドレスに送信をして頂ければ登録致します。宜しくお願ひ致します。

登録担当 岡本 興和
okow1439@hotmail.com

同窓会ホームページの状況について

寺村 紀美夫

同窓会のホームページ(以下「HP」)は、同窓会の目的である「神奈川県同窓会は、会員の親睦、情報交換、相互研鑽、社会への貢献並びに放送大学の発展に寄与することを目的とする」を具体的に実践するために2008年1月より開設されたものです。特に会員相互の親睦、情報交換に寄与していくものと思っています。

2010年4月から2012年3月までのHPアクセス数は以下のグラフとなっています。このグラフから日々アクセスして頂く件数(約5.3件/日)はまだまだ少ないように思っています。そのためにHP管理者は、内容(コンテンツ)を日々新たに更新したく、腐心しています。

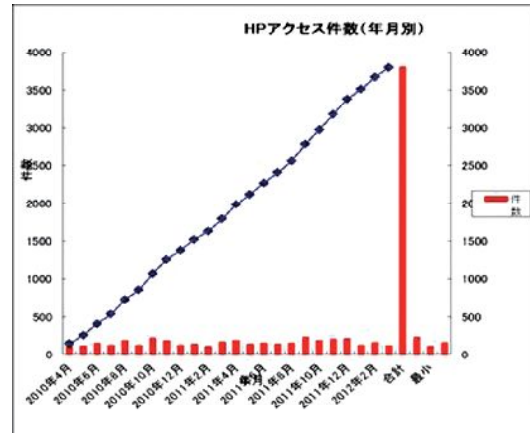
是非HPにアクセスして頂き、ご感想、ご意見等をHPの「会員投稿コーナー」または「hatoh-net」に投稿して下さいようお願いします。

さらに、会員皆様からのHPに載せるためのエッセイ、小論文、詩、和歌、俳句、川柳、写真、放送大学生

時代の思い出や感想等何でもよろしいので投稿をお待ちしています。ご協力のほどよろしくお願い致します。

HPアドレスはこちらです↓

http://www.geocities.jp/hatoh_net/
(hとnとの間はアンダーバーです)



『叢書販売』実施と 『あしなが育英会』への寄付

浅井 公子

神奈川県同窓会では、23年度より国内の社会貢献活動へ参画致しました。同窓会役員・准役員が放送大学叢書を販売し、その受託販売手数料の純益を『あしなが育英会』の理念と目的に賛同し寄付する事に致しました。

『あしなが育英会』とは、病気や災害、自死などで親を亡くした子供達や、親が重度後遺障害で働けない家族の子供達(遺児)を物心両面で支える非営利団体で、国の補助金・助成金を受けず、すべて寄付金で運営しています。遺児の高校・大学(専門学校)生への奨学金の貸与による進学支援や心のケア活動を行い、暖かい心・広い視野・行動力・国際性を兼ね備えた人類社会に貢献するボランティア精神に富んだ人材を育成する事を目的にしています。

『あしなが育英会』との情報交流は、年1回のペースで将来の夢や近況がしたためられたハガキが、1月の年賀状、8月の夏休み、3月の卒業時のいずれかに届きます。又、最新の活動情報やあしながさんとの紙上交流などが満載の隔月刊の機関誌「NEWあしながファミリー」が届きます。

【叢書販売】とは、有限会社「左右社」より出版されている放送大学叢書を、利益を考慮した金額(昨年は定価格より200円引)で、同窓会役員・准役員がイベント時等に販売し、売上金を「左右社」に振込み、「左右社」は売上げ金から卸値を差引き後、残額を同窓会口座に振込むシステムです。初回は平成24年3月に34,616円を寄付する事が出来ました。5月「あしなが育英会」本部から、礼状、受領証明書、隔月発行の機関誌「NEWあしながファミリー」が届きました。

放送大学同窓会連合会の動向

木村 勝紀

放送大学同窓会連合会は、平成2年3月31日に放送大学同窓会として創立され、平成10年4月19日に現在の放送大学同窓会連合会と名称を変えて今日に至っています。創立以来都合22年を経て全国50学習センターの内、各学習センターに45同窓会(他にサテライトに2つの同窓会がある)が設立され、全国組織化が進んでいます。

平成23年度同窓会連合会は、平成24年5月26日(土)の総会を以って一段落しましたが、東日本大震災直後から始まったこの期は、特別に記憶に残すべき時期であったと思います。4つの特別委員会を設けて活動をしましたが、概略をご紹介します。編集委員会は、名前の通り連合会広報誌『公孫樹』の第40号と第41号を発行しました。そしてまた前期から推進してきたICT(information and communication technology)の一層の活用促進を担いました。同窓会設立支援特別委員会は、上記のように全国組織化に向けて精力的に支援を続けました。財政基盤強化特別委員会は、財政基盤のみならず組織基盤の整備に向けて、放送大学本部からの助成金の活用、事務局強化などを推進しました。卒業・修了祝賀実行委員会は、平成24年3月24日(土)のホテルニューオータニに於ける祝賀パーティを周到な準備を経て、成功裏に実施しました。特に今回は、大震災による前回の中止を受けて2年分の卒業・修了生を交えて例年になく大人数の盛大なパーティとなりました。

尚、23年度の神奈川同窓会は、編集委員会の委員長を務めました。

現在の放送大学同窓会連合会は、神奈川同窓会の585名を含めて一万を超える大所帯となっていますが、24年度同窓会連合会は、新しい体制の下、益々の発展を期して活動を続けることになるでしょう。そして神奈川同窓会もまた、同窓会連合会を担う創立以来の名門同窓会として応分の役割を果たさなければならないと思います。

弘明寺サロンの歩み

金田 保男

平成23年8月「創立記念サロン」より始まった新しい[出会い、触れ合い、語り合い]の場は平成24年6月までに顔合わせを含めて10回開催されました。「生きた中小企業論」「古文書」の研究「鉄道Wonder Land」「幕末の日本のフランス語習得」「日本の洋紙について」「品川宿」「ネズミ以外の動物についてのおはなし」「松平春嶽公を語る」など「サロン」でしか聞くことが出来ない世界が登場しました。

「弘明寺サロン」の発展

平成24年4月4日(水)には2月の植地勢作氏の「日本の洋紙について」の講話から派生して、東京都北区王子の飛鳥山公園内「紙の博物館」および渋谷区一の「渋谷史料館」等同氏の解説でお花見を兼ねて案内して頂く等幅を広げてきております。徐々に型が整い始め、当初の小さな輪も今では大きな輪に成長してきています。



『岡本太郎美術館見学記』

森脇 早代子

放送大学を卒業して久しく同窓会の講演会には数回参加しましたが野外行事には初めての参加でした。11月26日お天気に恵まれて美しく紅葉したもみじ、黄色に色づき始めたメタセコイヤの林を抜けて岡本太郎美術館に着きました。1970年の暑い夏、子供たちと大阪万国博覧会会場で見上げた「太陽の塔」に強烈な印象を受けたことを思い出しました。その後テレビの映像などで観ることはありましたが実際の作品を拝見するのは初めてなので楽しみにしていました。

常設展「生誕100年、女と男と岡本太郎」展 企画展「岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)」展の期間中でした。ガイダンスホールで学芸員より美術館は岡本太郎がかの子・一平の子として誕生したゆかりの地であることなどの説明があり、その後案内を受けながら館内を廻りました。常設館の入り口はシンボルカラーである赤い壁と太陽の顔、進むと岡本一平とかの子の資料室で芸術家のご両親が分かる。赤・青・黄・緑・などと黒い線で描かれた迫力ある大作が並ぶ部屋、私は一見しては何かすぐには解らないが題名を見ると、なるほど！と見えてくる・・・観賞が進むにつれて楽しくなるような元気が出るような気分になりました。

彫刻の作品も大きく様々なテーマで力強さと楽しさがいっぱいでした。陶器の作品群は子どもや動物や



花などとても可愛らしいものがありカット見開いた太郎さんの目はこんなものも捉えていたのねと思いました。企画展の現代芸術賞TARO賞の数々の作品は素材・手法も新しく見応えがありました。

見学が終わってカフェテラスTAROで皆さんとティータイムを過ごし帰路につきました。今回は美術館の外壁工事中で「母の塔」もおおわれていましたので春になったらゆっくり訪ねたいと思いました。役員のみなさまにはすばらしい企画から当日のお手配まで本当にお世話になりありがとうございました。

フォスター・プラン活動報告

赤松 孝子

平成24年2月12日 13時-14時 公益財団法人プラン・ジャパンの担当者平田泉さんにお出でいただきました。最近の支援活動でジンバブエに行ってきたそうでスクリーンを使って説明していただいたのですが村のお祭りがあり、そのお祭りに参加するために8里の道を歩いて子供たちが集まってくるのだそうです。終戦後の、日本を見るようなそんな情景でした。私達が行っている寄付のかたちは(開発支援)という言葉に込められています。開発とは国や地域を発展させること。そして支援とは、その行為をお手伝いすること。



具体的に学校や診療所などを建設する、いわゆる(ハード)の部分と、教師のトレーニングや収入を得るための職業訓練など(ソフト)の部分に分けられます。

ハードとソフトの組合せこそが開発支援の要諦であり、両者のバランスを考慮しつつ、プロジェクトとして年間約1万件が世界で実施されています。こうした背景により、開発支援が一定の成果をあげるまでには長い時間がかかります。施設、設備の整備はもとより、そこで働く人材の育成までを行い機能させる。そこまで住民に寄り添い自立を促すのが役割だそうで大変なお仕事だと思いました。最近バンングラディッシュのロ・ジーナからお便りが届きましたので紹介します。

『お手紙と季節のカードをいただいて嬉しいです。お手紙にどんなゲームが好き？とありましたが、私はベンガル語の本を読む事と人形遊びが好きです。今私の国は熱いです。時々激しく雨が降ります。』

写真は12歳になったロ・ジーナです。

企画だより

9月1日(土) 9月2日(日)	第26回フェスタ・ヨコハマ 神奈川同窓会はお茶 席、福引大会を出店
8月15日 9月19日 10月17日 11月21日 12月19日	弘明寺サロン 水曜日 13:30～16:30
9月30日(日)	卒業・修了祝賀会
11月17日(土)	秋の行事 詳細は波濤 44号(2012-11月発行)で ご案内いたします。
12月19日(水)	忘年会(弘明寺サロン 終了後)
3月3日(日)	映画鑑賞会と講演会

事務局だより

会員動向

平成24年度(4月1日現在)の会員数は589名でスタートしました。その後ご逝去された方・退会された方もおり、平成24年度総会時点(5月27日)では585名となっており、平成23年度総会時点では563名でしたので、徐々に増加傾向にあります。平成24年度春季入会者は下記の方々が新会員となりました。心より歓迎申し上げます。41名(敬称略)

大西 正孝	小林 吉雄	大西 京子	阿久津四良
大谷 敏子	高橋 佐年	穴沢 修一	安藤 康子
王丸 文八	安達 美帆子	飯塚 武夫	奴間 智彦
長雄 市子	高浦 薫	中川 愛	楯 隆子
高橋 昭善	小池 敏弘	呉 孝美	中野志津江
尹 秀蘭	竹内 豊治	吉田とよ子	三壁 信洋
後藤 初江	網島 宏美	佐藤 真弓	余村 和美
金丸 公二	横浜 孝子	小野 房男	掛川 后代
久保 敏夫	瀧澤 善尚	篠原 えみ	綾部 泰雄
松本 進	興呂智太郎	佐々木奈々子	泉 恵子
出町 貴弘			

年会費納入のお願い

新年度を迎え着々と年会費を納入頂いておりますが、5月26日現在の納入率は、63%となっております。宜しくご協力のほどお願いいたします。なお、払込取扱票(青伝票 送付済)の口座番号、年会費金額等は下記のとおりです。

口座名 神奈川同窓会
口座記号番号 00250-16183
年会費 1,000円

郵便番号(〒)、住所、氏名、電話番号を記載ねがいます。

お問い合わせ:金田 保男(電話:045-333-4426)

払込取扱票記載時のお願い

「払込取扱票」に記載されている住所・氏名・電話番号・Mail address等は郵送書類(「総会案内」「波濤」等)を確実にお届けするため明瞭に記載お願いいたします。文字を誤認し返送される事がありますので「楷書」でご記載のほどお願いいたします。

会員一覧の記載の訂正

総会議案書に同封した会員一覧の訂正です。

〈2重記載〉

#237 後藤初枝様(#238) #436 上代益栄様(#437)

〈氏名の変更と訂正 括弧内は訂正前〉

#31 梅田香織様(福井香織)

#38 齊藤真佐乃様(齋藤眞佐乃)

#338 塩澤香代子様(塩沢香代子)

#575 岡本真智子様(岡本真知子)

ご逝去

吉田 昭二様 木下 城力様
謹んでお悔み申し上げます。 合掌